成果の説明書

| (氏名)　黒崎龍悟 | (学部)　経済学部 |
|---|---|

1　重要事項

＜研究＞

科学研究費補助金（「その他の事項参照」）をもとに東アフリカ・タンザニアの農村を事例に、草の根の自然エネルギー利用の実態について調査研究を続けている。R4 年度は、現地渡航が再開できたが、コロナ禍の間の情報のキャッチアップが中心となり、新規のデータは十分には収集できなかった。一方、比較研究のための日本の事例に関する資料を収集することに力を注いだ。日本の明治～昭和初期の大河川における水車利用を調べることで、アフリカでの自然エネルギー利用に示唆を得られる可能性を考えて、資料収集を継続している。

＜教育＞

対面授業が再開され、従前の授業構成どおりに実施することが可能になった。なるべく受講者への質問等を織り交ぜたり、ワークやレポートの内容を発表したりする時間を設けることで、受講者間の理解の共有を促進するとともに、インタラクティブな授業になるように努めた。ゼミにおいては、国内フィールドワーク（福島、埼玉）、海外フィールドワーク（タンザニア）に加えて卒業論文作成のための合宿を学生とともに企画・実施した。また、卒業論文（8 名）を指導した。

＜社会貢献＞

以下の 3 つの事業をとおして、研究成果を発信した。

- 地域科学研究所公開講座「アフリカにおける家庭用太陽光発電の可能性と課題」を担当（10 月 26 日）。
- 健康福祉大学高崎高校における出前授業「アフリカをフィールドワークする」を担当（11 月 22 日）。
- NHK world Japan ラジオ（スワヒリ語）　“*Ukumbi wa Jumapili*”においてタンザニアでの研究に関する話題を現地向けに提供（2023 年 3 月 5 日）

2　その他の事項

- 学内業務：国際交流委員、地域科学研究所・総務企画委員長を担当した。
- 外部資金獲得状況・共同研究など
  - 科研費・基盤（B）（分担）「タンザニア半乾燥地域における混交林の形成と持続的な利用に関する実証的研究」、
  - 科研費・基盤（B）（分担）「東アフリカの再エネ開発をめぐる社会的合意形成と土地利用再編の解明」、
  - 科研費・基盤（B）（分担）「タンザニア農村における電化のインパクトと再生可能エネルギー導入に関する学際的研究」
  - 高崎経済大学・地域科学研究所研究プロジェクト（分担）「日本における「持続可能な地域」実現の展望と課題―ガバナンスと域内経済循環の観点を中心に―」

3　次年度以降の計画・抱負

教育に関して、授業内で取り入れているワークは感染対策の面から個人単位でおこなってきたが、様子をみながらグループでのワークに切り替えることを試行して、学習効

果を高めるようにしていきたい。また、学生の関心を取り入れながら国内フィールドワーク、海外フィールドワークを学生とともに企画して積極的に実施していきたい。

研究に関しては、対面・オンラインをうまく組み合わせながら、関心領域の近い研究者らとの研究会の頻度を増やして研究内容を活性化させていきたい。タンザニアでの自然エネルギー利用に関する新たなデータを収集して論文としてまとめることや、昨年度から資料を収集している日本の水力事例の歴史について、論文としてまとめることを目指す。また、その成果を社会に発信していくよう努めたい。